

資料① 現代語訳（チャットGPTを参照）

書取をもって申し入れます。

先日は初めてお目にかかり、互いに誠意を尽くして語り合うことができ、大変喜ばしく存じました。その折、貴国との和親貿易条約の延期について種々ご説明申し上げましたところ、事情が容易ならぬ旨を詳しく述べられ、よく考えたうえで返答するようにとのことでしたので、すべてそのご意向に随い、さらに深く思索し、幾度も協議を重ねました。

しかしながら、貴国が詳しく述べられた趣旨は、私どももすでに十分に推し量ったうえで決断したことでありますので、今ここで申し上げる返答に他意はございません。

もっとも、言語が異なるため、互いに通訳を介して意思を通じておりますゆえ、双方の真意が十分に伝わらず、私どもの誠意が行き届かぬことを深く憂えております。そこで、その折の議論をここに詳しく述べます

そもそも、我が国が国を閉ざして外国との交際を求めなかったのは、ほぼ三百年に及びます。しかるに、アメリカ合衆国大統領の切なる忠告により、近年その制度を改め、沿海に来る諸外国船に必要な物資を供給し、さらにアメリカ公使ハリスの要請に応じて、現在行っている通商を開きました。そしてロシア、フランス、イギリス、オランダの諸国とも同様に条約を結びました。

ところが、開港後の情勢は予想外のものとなり、いまだその利益を見ておりません。加えて、彼我の貨幣価値が均衡せず、我が国から国外へ輸出される物産は非常に多いのに対し、輸入される品物はきわめて少なく、その結果、物価は日ごとに激しく高騰しております。生業を失う者、貧困と飢寒に苦しむ者も現れ、怨みや非難の声次第に起こり、富裕な者や高位の者にとっても快くない兆しが少なくありません。これは国家として深く憂慮するところであります。

長年の風習は一朝一夕に改められるものではなく、これらの憂いがなければよいのですが、いまだ民心が安んじ喜ぶ状態を期待することはできません。前述の弊害が広く民衆の生業に影響している以上、勢い外国人を忌み嫌い、あるいは敵視するに至ることもあります。このような時にあって、将来の利益を説いて理解させることはきわめて困難であります。

今、適切な方策を考えますに、貨幣の価値が次第に均衡し、輸出入の数量が内外ほぼ同等となり、民衆自らその利益を悟って、命じなくとも進んで交易に励み、日々外交の盛んになることを喜ぶような時を待って、徐々にこれを図るべきであります。段階を踏んで行えば、無理をせずとも困難を感じずに済みますが、急いで事を進めれば、理にかなっているとしても、弊害が伴うのは避けがたいところです。

近頃、ベルギーおよびスイスの二国より和親通商の要請がありました。この理由によってこれを謝絶いたしました。現在の国内情勢は前述のとおりであり、政府といえども威力をもって強いることはできません。実行すべきでないこと知りながら、ひとまずその求めに応じることは誠信の道に背くものであり、すでに締結した条約の維持さえ困難になるおそれがあります。

ポルトガルとは旧来の関係により近日条約を結びましたが、これもまた世論を騒がせ、さらなる混乱を招いております。今、もし貴国の求めに応じれば、他国の求めも拒みがたくなるでしょう。そのような時勢に逆らい、民心に背く弊害がどのような災禍を生むか、予測できません。これが私どもが遠く慮り、深く憂えるところであります。

ゆえに、過去を鑑み将来を察するに、急いで事を誤るよりは、時を待って成功を全うするほうがよいと存じます。目先のご意向に逆らうことを恐れて我が国に不測の災いを招くよりも、民心が和らいだ後に応じ、各国との不朽の交誼を広く確かなものとするほうがよいのです。

もちろん、書面では意を尽くせませんので、詳細な事情は委任した両名の口頭説明に託しております。追って面会のうえ、さらに詳しくご説明申し上げます。

本書に述べた趣旨と、両名が口頭で申し述べる内容とをあわせて、深くご思慮いただき、筆紙や言語では十分に表し難い、私どもの偽りなき誠心をご理解のうえ、両国の信頼と安全を図り、人心が帰服する時を待って、あらためて協議し、その結末を全うすることを願っております。

以上、申し入れます。

資料② 現代語訳 (チャットGPTを参照)

(相手側の主張)

人心が折り合わないという件は、全く日本一国の内政上の問題であって、外国が関与することではない。不折合の理由があるならば、それは政府の威権によっていかようにも処置すべきである。もしその政務が行き届かないというのであれば、それは政府の力不足である。

(右に対する回答)

現在、人心が折り合わない状況は、日本の政治そのものに原因があるのではありません。外国との間で貨幣価値が均衡せず、輸入品はきわめて少なく、輸出品は過多であるため物価が高騰し、民業に少なからぬ支障をきたしていることから、自然に騒ぎが起こっているのです。

貨幣価値の均一については、開港以来、誠意を尽くして議論を重ねてきました。しかし各国公使にはそれぞれ一致した持論があり、内外の差異が大きく隔たったままであったため、この弊害が生じたのであり、日本一国の措置に起因するものではありません。

とはいえ、この事態を整え、永久の安全を図ることは本来政府の責任でありますから、他国に求められずとも適切な処置を講ずるべきことは当然です。ただし、先日も申し述べたとおり、これは段階を踏んで行うべきことであり、急速な処置は困難です。

また、条約の期限を延ばしたいとの希望は、日本の私意によるものではなく、わが国の領域に不測の災いが起こるのを避けるための遠大な計画に基づくものです。もしこの点を十分にお考えになれば、貴国が自国の名誉や利益のために、あえてこの要請を強く迫ることはないはずです。

(相手側の主張)

プロイセン国もロシア・フランス・イギリス・アメリカ等に劣らぬ国であるのに、他の四か国と条約を結びながら、これを除くのは、その国の名誉に関わる。

(右に対する回答)

貴国が強大な国であることは、各国が広く承知していることであり、日本の取り扱いによってその強弱が左右されるものではありません。

いま利害得失をよく考えますに、すでに名声ある貴国は万事に不足なく、日本一
国との交易を広げたとしても、おそらく大きな利益とはならないでしょう。また、日
本一国との交際を欠いたとしても、格別の損失になるものでもありません。つまり、
日本との交際の有無によって、プロイセン国に大きな損益があるとは思われません。
しかし日本にとっては、これ以上新たに一国との交際を増やすことは、民心に財貨
を与えるどころか、前に述べたような事情から禍害が少なくありません。さらに、そ
の意図が急迫して事を破綻させるよりは、順序を緩やかにして永久の安全を図るほう
がよいのです。

これは決して貴国の要請に背くためではありません。道理に照らして考えるならば、
いずれが公でいずれが私であるか、深く遠大に熟慮のうえ、再度のご返答を願います。

(相手側の主張)

他国とはすでに貿易を行っているのに、ドイツ(プロイセン)とだけ行わない状態
を長く放置することはできない。

(右に対する回答)

もとより日本においても、このまま長く放置する考えはありません。交易に利益が
あることを国民が広く悟り、都市と地方を問わず異論のない状態となることを求め、
日夜改革に努めております。

数年を待たずして人心が和らぎ、内外が折り合う時が来るでしょう。その節には速
やかにその旨を通達し、あらためて協議に及ぶ所存です。